



## 《ロジャー受信機を搭載した補聴器の紹介》

ろう学校では、通常であれば受信機を首に下げて使用しますが、今回紹介する補聴器はその必要がありません。なぜなら、初めから補聴器の中に受信機が搭載されているからです。どういう仕組みになっているのか、Q&A方式で少しかだけ説明したいと思います。

Q1: 受信機を購入する必要はないの？

A1: これまでと同様に受信機のご購入は必要です。その際は、ロジャーXを選択する必要があります。ただし、補聴器に接続する必要はありません。

Q2: 搭載されている受信機は、どうやって使うの？

A2: 購入したロジャーXの情報を専用の機械を通して、この補聴器にインストールすることで、受信機として使用できるようになります。

Q3: 受信機が搭載されていることで、これまでと何が違うの？

A3: これまでは、首から下げるタイプの受信機や補聴器に装着するタイプの受信機が使用されていました。そうすると補聴器が大きくなったり、装着にわずらわしさがあったりしました。しかし、この補聴器の場合は、受信機が搭載されているので、補聴器の大きさも変わらず、装着のわずらわしさもありません。

Q4: 他には、どんな機能が付いているの？

A4: タブレットやスマートフォンにBluetoothで接続することが可能です。  
また、グレードによっては、充電式のものもあります。

皆さんの補聴器は、概ね身体障害者手帳を所持している人が申請にて取得できるタイプのものです。今後の生活のスタイルに合わせて、必要な機能を搭載した補聴器を選んでみてはいかがでしょうか。ちなみに、今回紹介した補聴器の中には、18歳以下であれば申請にて取得できるモデルもありますので、興味のある人は補聴器販売店に問い合わせてみてはいかがでしょうか。

### 新しい言葉の手話表現

#### 「ソーシャルディスタンス」



両手の人差し指を立てて人を示し、人と人との間をあけることを表します。

新しい言葉に対して、いろいろな手話表現が工夫されています。現在、見かける表現の一例を紹介します。いずれ統一した表現が普及されるでしょう。

#### 「<sup>みつ</sup>3密」 (3つの密)



数詞の三を示し、もう一方の手で隠します。

## 「聞こえているみたいだけど・・・聴覚情報処理障害の人たち」

Aさんは中学校の教室でいつも前から2番目の席に座っていました。そこが定位置。補聴器とロッジャーを使って先生の話聞いています。ふと気がつくたびにいつも自分の近くの席を選んでいる生徒Bさんがいました。「Bさんは聞こえているみたいだけれど、いつも前の席だ。視力も問題ないみたいだけれど。」

Bさんは聴力検査で「聞こえていませんよ。」と言われたことはこれまでありません。聴力は問題なし。けれど、人の話が分りづらいのです。観察しているとBさんは「え!?今、なんて言ったの?」とよく友達に聞き返しています。遠くで先生が何か説明したときもキョロキョロ。「ねえ、先生は今なんて言ったの?」。Aさんは聞かれてびっくり。

実は、Bさんは「聴覚情報処理障害」。脳の中で音声言語をうまく処理できない。つまり、音は聞こえるけれど、人の言っていることが分りにくい障害なのです。学校ではクラスの友達において行かれることもたびたび。

AさんはBさんに「ロッジャーを試してみたら」と勧めてみました。雑音が小さくなり会話に集中できて、Bさんは「この機械は自分に合っている。」と感じました。「聞こえているけれど、聞き取りづらい人」は結構いるのです。ゆっくり、はっきり、大きめの声など、相手に応じたコミュニケーションを取ることがみんなに広がるといいですね。

### 「110番アプリシステム」を知っていますか？

緊急事態が発生して、警察に通報したいとき、あなたはどうしますか？

電話で110番に通報するのが一般的ですが、スマートフォンのアプリを利用して、文字や画像で警察に通報できるシステムがあります。

このアプリは、「110番アプリシステム」といい、聴覚や言語に障害のある人や音声による110番通報が困難な人のみが見えるシステムです。もちろん、うそやいたずらで通報すると、登録を取り消されたり、犯罪として扱われたりする場合がありますので、注意が必要です。

このアプリは、ダウンロードした後、事前に「氏名、電話番号、パスワード等」を登録して利用します。

通報する場合は、接続ボタンをタップし、登録した「電話番号」と「パスワード」を入力します。「現在地」や「何があったか」など、「質問項目」に沿って状況を入力します。間違えて通報した場合は取り消すこともできます。

入力を終わったら、「通報する」をタップして、警察からの指示があるまで待ちます。アプリを停止しないことが大切です。警察からチャット方式で連絡が来て、文字でのやり取りが始まります。事件や事故の詳しい状況など伝えましょう。文字だけでなく、写真を撮影して送信することもできます。GPS機能をonにして、位置情報の取得に同意しておく、GPSを利用し、通報場所の位置情報を通知することもできます。

国内ならどこからでも通報ができます。活用してみたいかかでしょう。

→右のQRコードからWEBページにアクセスすることができます。

